

公共道路改良事業（主）金沢井波線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

金沢市

# 角間川遺跡

2007

石川県教育委員会

(財)石川県埋蔵文化財センター



かく ま がわ 遺 跡

2 0 0 7

石 川 県 教 育 委 員 会

(財) 石川県埋蔵文化財センター





金沢市立小立野小学校 6 年生遺跡見学（南から）



調査区トレンチ完掘（東南から）



## 例　　言

- 1 本書は角間川遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は金沢市角間町地内である。
- 3 調査原団は公共道路改良事業（主）金沢井波線であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課が、石川県立埋蔵文化財センターに発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は石川県立埋蔵文化財センターが依頼を受けて昭和59（1984）年度に、報告書刊行は財團法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて平成18（2006）年度に実施した。
- 5 調査に係る費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。
- 6 現地調査は昭和59年度に実施した。期間・面積・担当者は下記のとおりである。

期　間　昭和59年5月8日～同年6月1日  
面　積　350m<sup>2</sup>  
担当者　主事　越坂一也
- 7 報告書の刊行は平成18年度に実施し、調査部調査第3課が担当した。執筆分担は下記のとおりである。編集は藤田邦雄（調査部調査第3課課長）が行った。

第2章：大路葉子（調査部調査第3課嘱託調査員）　その他：藤田邦雄
- 8 調査には下記の機関の協力を得た。

石川県土木部道路建設課、県央土木総合事務所（旧金沢土木事務所）、金沢市教育委員会
- 9 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 10 本書についての凡例は下記のとおりである。
  - (1) 方位は磁北である。
  - (2) 水平基準は海拔高であり、T, P, (東京湾平均海面標高)による。

## 目 次

第1章 経 過 .....	1
第1節 調査の経緯.....	1
第2節 発掘作業等の経過 .....	1
第2章 遺跡の位置と環境 .....	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境 .....	2
第2節 歴史的環境.....	2
第3章 調査の方法と成果 .....	5
第1節 調査の方法 .....	5
第2節 層 序 .....	5
第3節 遺物と成果 .....	5

## 挿図目次

第1図 調査区位置図 (S=1/2,000) .....	1	第5図 調査区配置図 .....	6
第2図 遺跡位置図 .....	2	第6図 第1トレンチ土層断面図 (S=1/60) .....	7
第3図 周辺の遺跡 (S=1/25,000) .....	3	第7図 第2～4トレンチ・TP13土層断面図 .....	
第4図 出土遺物 (S=1/3) .....	5	(S=1/60) .....	8

## 表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表 .....	4
--------------------	---

## 図版目次

卷頭 上	金沢市立小立野小学校6年生 遺跡見学（南から）	3右 TP5土層断面（東南から） 4左 TP6完掘（東南から）
図版1 上	範囲確認調査	4右 TP6土層断面（北西から）
図版1 下	第1トレンチ掘り下げ（東から）	1左 TP7調査風景（北西から）
図版2 上	第2トレンチ掘り下げ（東南から）	1右 TP8土層断面（東南から）
図版2 下	第4トレンチ完掘（北東から）	2左 TP9完掘（東南から） 2右 TP10完掘（北西から）
図版3 1左	TP1土層断面（北東から）	3左 TP11完掘（東南から）
1右	TP2土層断面（北東から）	3右 TP12土層断面（東南から）
2左	TP3完掘（東南から）	4左 TP13土層断面（東南から）
2右	TP3土層断面（北西から）	4右 第4トレンチ完掘（南西から）
3左	TP4完掘（東南から）	

# 第1章 経過

## 第1節 調査の経緯

角間川遺跡は、公共道路改良事業（主）金沢井波線工事に伴い、昭和59年度（1984）に石川県土木部道路建設課長の依頼を受け石川県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。おりしも金沢大学の角間キャンパス移転計画が進み、事業の進捗が図られる中での調査であった。路線は現道に重複または東側に沿うように計画され、周辺環境は山林である。

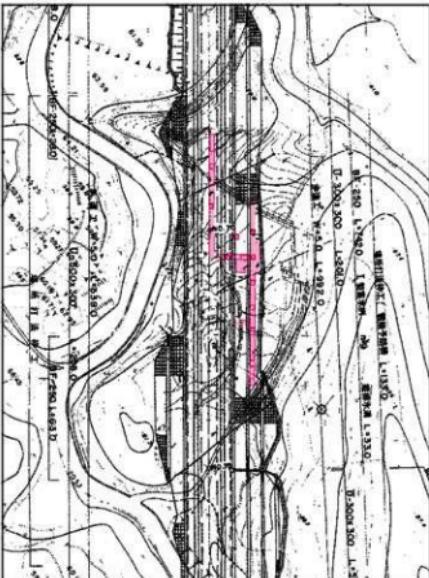
## 第2節 発掘作業等の経過

本調査に先立ち、昭和59年5月8日に重機による範囲確認調査を行った。遺跡推定範囲内に11箇所の試掘坑を設け土層状況等を確認した。基本層序は表土（耕作土）、黒色腐食土層、礫を含むローム層（地山）に分かれる。その結果、遺物は採集できるが構造密度等は稀薄と判断され、本調査では全面発掘を避けトレンチ調査での対応となった。

本調査は5月16日からはじまり、路線の縦・横に第1～3トレンチを設定、翌17日より人力での掘り下げ作業を開始した。第1トレンチでは溝状遺構やピットが検出されたがいずれもしまりの弱い覆土で、後世の畝溝、ハザ穴と判断した。5月18日は地元の金沢市立小立野小学校6年生が遺跡見学を行い、生徒の一人が第1トレンチ周辺で縄文土器をみつけている。第3トレンチの遺構検出面では搅乱が激しく、近代以降の陶磁器片が出土した。

なお、上面では明確な遺構が検出されないため、5月19日からはトレンチ内外の13地点でテストピット（TP）を設定し地山面（ローム層）までの掘り下げを行った。さらに5月21日以降はTPの掘削とあわせ第1トレンチを拡張し、22日にはTP5脇に新たに第4トレンチを設け掘り下げ作業を実施した。遺物は細片で、表土層からの出土が多い。5月23日からは地形測量及び土層断面図作製、写真撮影を行い6月1日に発掘機材を撤収し現地作業を完了した。

報告書の刊行は、道路建設課から依頼を受けた文化財課（石川県）からの委託事業（いしかわ広域交流幹線軸道路整備（主）金沢井波線）として、平成18年度に財團法人石川県埋蔵文化財センター調査部調査第3課が担当した。



## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

角間川遺跡は、石川県金沢市角間町地内に所在する。角間町は、浅野川中流域に位置し、川の右岸と森本・卯辰山丘陵の間に展開する比較的なだらかな河成段丘上にある。町内の河川は角間川が唯一で、河谷は、丘陵・段丘地をぬって樹枝状に発達し、谷頭では、本地域の地質の影響で、急崖をなすところが多い。

角間町は市街地より約5kmの位置にあり、かつては丘陵部に広大な水田が広がる農村域であった。しかし昭和55年（1980）、角間町に金沢大学が移転することが発表されてから、周辺の若松町・鈴見町を含み、角間町でも、区画整理や道路敷設が急速に進み、景観は一変した。さらに平成18年（2006）、金沢外環状道路山側幹線（通称山側環状）の全線開通に伴い、郊外型大型小売店の進出、住宅地の拡大など、さらなる変貌を遂げつつある。

### 第2節 歴史的環境



第2図 遺跡位置図

周辺の遺跡には、縄文時代から近世までの幅広い時代がみられる。

縄文時代では台地・丘陵・段丘上に遺跡が存在する。丘陵部には、若松マキノ遺跡（22）、角間乾場山遺跡（30）などがあり、今回報告する角間川遺跡でも、中期の土器数点が出土している。また小立野台地にある笠舞A遺跡（23）では、中・後期の集落が見つかっている。

弥生時代では、犀川縁の平地に大桑橋遺跡（31）が、浅野川の河成段丘上に若松遺跡（28）、田上西遺跡（27）、田上東遺跡（32）、田上北遺跡（29）、田上南遺跡（35）がある。若松遺跡で弥生時代末～古墳時代初期の集落や墓地が、田上南遺跡、田上本町遺跡（34）などでは土器片が出土している。

古墳時代では、前期の田上本町遺跡、中・後期の田上南遺跡で集落の存在が明らかになっている。小立野台地には崎浦御塚遺跡（25）という古墳群が記録されているが、明治10年（1877）、陸軍練兵場を造成する際に破壊されたと伝えられている。

古代にかけては、河成段丘上に若松遺跡、田上東遺跡、田上南遺跡が、川縁に田上本町遺跡が認められ、丘陵部の角間遺跡（36）からは、9世紀の「一乘」、「寺」墨書き土器と仏器が出土している。

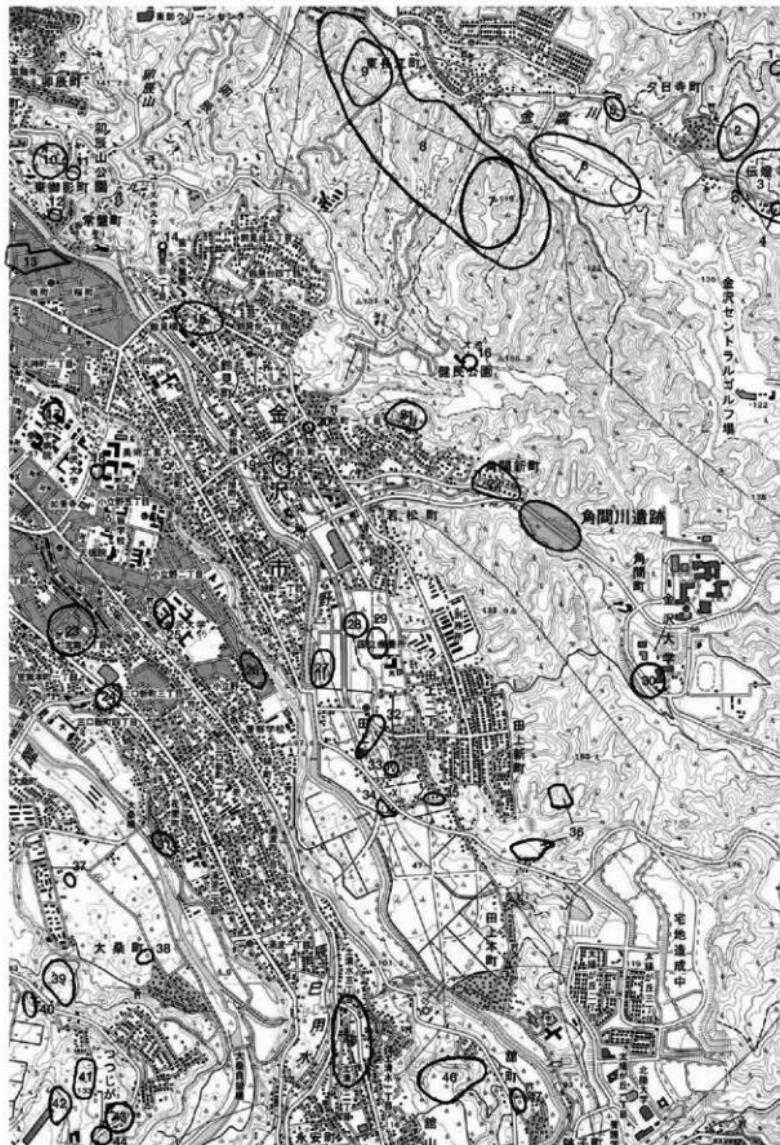
中世では、若松遺跡、田上西遺跡、田上南遺跡、大桑ジョウデン遺跡（38）に集落が展開する。これらその他に、平坦面と土星が残る若松本泉寺跡（21）などがある。

#### 引用・参考文献

石川県教育委員会 1992 「石川県遺跡地図」

谷口宗治・前田雪恵 2004 「金沢市若松遺跡－田上遺跡群Ⅲ－」 金沢市教育委員会

谷口宗治ほか 2005 「金沢市田上西遺跡Ⅱ－田上遺跡群Ⅳ－」 金沢市教育委員会



第3図 周辺の遺跡 ( $S=1/25,000$ )

番号	名 称	所 在 地	現 状	立 地	時 代	主な出土品	備 考
01232	角間川遺跡	金沢市角間町	山林	丘陵	縄文、中-近世	陶文土器、土器部器、陶器器	1984年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査
1 01242	夕日寺古墳跡	金沢市夕日寺町	山林	丘陵	平安、鎌倉	土器器	
2 01241	夕日寺跡	金沢市夕日寺町	山林	丘陵	南北朝、近世		
3 01240	伝灯寺塚穴群	金沢市伝灯寺町	山林-樹	丘陵群-丘陵斜面	古墳		1994年金沢市教委発掘調査
4 01239	伝灯寺遺跡	金沢市伝灯寺町	山林	丘陵	縄文	陶文土器、磨製石斧	枝番号が26番まである
5 01244	夕日寺遺跡	金沢市夕日寺町	牧地	丘陵	縄文	磨製石斧、石器	
6 01245	長尾寺跡	金沢市東長江町	山林	丘陵	不詳		1994年金沢市教委発掘調査
7 01246	東長江二ノツマニ城跡	金沢市東長江町	山林	丘陵	不詳		平照面、石垣あり。伝信久間藤原城
8 01247	東長江城穴群	金沢市東長江町	山林	丘陵群-丘陵斜面	古墳		
9 01248	龜尾城跡	金沢市龜尾町	山林-樹	丘陵	豊町		枝番号が17番まである
10 01224	宇多崩城跡	金沢市宇崩町	公園-山林-杜-宅地	丘陵	不詳		
11 01225	御賀山遺跡	金沢市御賀町	公園	丘陵斜面	奈良、平安		
12	金堀町遺跡	金沢市金堀町					
13 01218	横山寺星敷跡	金沢市横山寺町	宅地	平地	江戸		
14	東御影寺遺跡	金沢市東御影町					加賀藩家老横山氏城跡
15 01226	見足寺遺跡	金沢市見足町	田	河岸段丘	奈良、平安	土器器	
16 01230	若松大池遺跡	金沢市若松町	山林	河岸段丘	縄文		
17	宝町遺跡	金沢市宝町	牧地		縄文、弥生、古代 中後、江戸 (漆器品)	陶文土器、弥生土器、陶器、陶器 全般制品、木製品、石製品、瓦	1997~2002.2004.2005年金沢大学発掘調査
18	経王寺遺跡	金沢市小立野		丘陵	江戸、近代		
19 01227	田上遺跡	金沢市田上町	田	河岸段丘	縄文、平安、中後	陶文土器	1998年(第)石川県立埋蔵文化財センター発掘調査
20 01228	若松八幡社遺跡	金沢市若松町	田	河岸段丘	室町		1997年金沢市教委発掘調査
21 01229	若松八重寺跡	金沢市若松町	田-宅地	丘陵	室町		
22 01231	若狭マキノ遺跡	金沢市若狭町	山林	丘陵	縄文、奈良、中世	陶文土器、土器器、須恵器、珠渦地	
23 01180	舞人舞跡	金沢市舞人町	宅地-樹	河岸段丘	縄文、古墳、平安 土器骨壙、輪製石斧、棺蓋石器	陶文土器、石器、瓦、鉄鋤 土器骨壙、輪製石斧、棺蓋石器	1984年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査 1978年(第)石川県立埋蔵文化財センター発掘調査
24 01188	三日町遺跡	金沢市三日町	宅地	河岸段丘	平安	須恵器、土器器	1978.1979.1987.1988.1997年市教委発掘調査
25 01186	崎浦御城跡	金沢市小立野	牧地	丘陵	古墳		金沢大学工学部敷地
01187	上野本町遺跡	金沢市小立野	宅地	丘陵	縄文	石器	
26 01185	田上界刺駒場遺跡	金沢市小立野	宅地	丘陵	縄文		
27	田上西遺跡	金沢市田上町		河岸段丘	弥生、飛鳥-奈良 平安-鎌倉	土器器、須恵器、珠渦地、土葬 輪製骨壙、輪入白磁、砥石 瓦、瓦質、唐、須恵器、漆器組	1997.1998.2000年金沢市教委発掘調査
28 01233	若松遺跡	金沢市田上町北	田	河岸段丘	縄文-古墳 平安-鎌倉	陶文土器、弥生土器、須恵器 土器器、珠渦地、陶器、漆器碗	1998~2000年金沢市教委発掘調査
29	田上北遺跡	金沢市田上町北		河岸段丘	弥生、平安-鎌倉	弥生土器、土器器、須恵器 珠渦地、瓦質、砥石	2000年金沢市教委発掘調査
30 01234	角間乾場山遺跡	金沢市角間町	牧地	丘陵	縄文		
31 01184	大桑七郎遺跡	金沢市大桑町	宅地	河岸段丘	縄文、弥生	陶文土器、瓦	1987年金沢市教委発掘調査
32	田上東遺跡	金沢市田上町西	田	河岸段丘	縄文、弥生 平安-鎌倉	陶文土器、石器、瓦 弥生土器、土器器、珠渦地、瓦質	2000年金沢市教委発掘調査
33	(仮称)田上船跡	金沢市田上町		河岸段丘	不詳		
34	田上本町遺跡	金沢市田上町		河岸段丘	古墳、奈良、鎌倉	土器器、須恵器、珠渦地	1998年金沢市教委発掘調査
35	田上南遺跡	金沢市田上町		河岸段丘	縄文、弥生 奈良、鎌倉	陶文土器、石器、瓦質、輪入青組 須恵器、石器、瓦質、輪入青組	2001.2002年金沢市教委発掘調査
36	角間遺跡	金沢市角間町	牧地	丘陵	縄文、弥生、平安 鎌倉-室町-江戸 奈良、青組、白組、陶器器	陶文土器、土器器、土器器 須恵器、青組、白組、陶器器	1997~1999年金沢大学発掘調査
37	大桑七郎遺跡	金沢市大桑町		河岸段丘	奈良、平安	土器器	1999年金沢市教委発掘調査
38	大桑ジョウザン遺跡	金沢市大桑町	田	河岸段丘	平安-鎌倉 青組	土器器、須恵器、珠渦地、白組 須恵器、青組	2000~2001年金沢市教委発掘調査 大桑遺跡を改名
39 01155	大桑七郎南平北遺跡	金沢市大桑町	田	平地	縄文、奈良、平安	陶文土器、土器器、須恵器	詳細試掘調査により「なし」
40 01156	大桑七郎南平遺跡	金沢市大桑町	畑	丘陵	平安	須恵器、瓦	
41 01157	大桑中平南遺跡	金沢市大桑町	田	丘陵	縄文	陶文土器、石斧、石斧、石錐	1972年沼田吉太郎氏発掘調査
42 01156	三小牛作農場遺跡	金沢市三小牛町	菟地-宅地	丘陵	縄文	陶文土器、石斧、石錐	
43 01161	つむぎが丘遺跡	金沢市別所町	山林	河岸段丘	縄文	陶文土器、石器	
44 01162	三小牛オシマ遺跡	金沢市三小牛町	畑	平地	奈良、平安	瓦、土器器、須恵器	
45 01183	土清水遺跡	金沢市土清水町	畑	丘陵	平安	須恵器	詳細試掘調査により「なし」
46 01182	船山遺跡	金沢市船山町	单層閣-宅地	丘陵	縄文	石器	
47 01181	船道跡	金沢市船町	畠	丘陵	縄文	青銅石斧	

第1表 周辺の遺跡一覧表

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

調査は、工事計画路線のセンターラインを基軸にNO.73~68間に幅2mのトレントを縦横に設置して行った（第5図）。まず、第1トレントの起点はNO.72の北東側17mに置き、センターラインに平行して北西側に55m延長した。第2トレントはNO.71の北西側10mを起点とし、センターラインに沿ってNO.68までの50mを設定した。また、第3トレントは、第2トレントの起点と第1トレントを直角に結ぶ15m間に設けた。その後、第1トレントを東南側に20m延長し、さらに遺物の出土状況をみるために第1・3トレント周辺を部分的に拡張するとともに、第1トレントに直交して長さ7mの第4トレントをあけている。

そうした作業とあわせて、遺物包含層及び地山面を確認するテストピット（TP）をトレント内を中心として13箇所設置した。規模は2m四方を基本とし、約1~1.5m程度の深さで地山面が認められた。

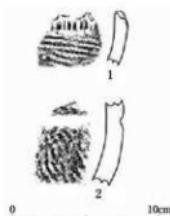
### 第2節 層序

土層観察は、第1・2トレント南西側（SP①~⑨・SP⑩~⑯）、第3トレント北西側（SP⑰~⑲）、第4トレント東南側（SP㉐~㉑）及び各TP（SP㉒~㉗）でそれぞれ実施した。地表面の標高は東南側（TP7）で77.7mと最も高く、北西側に向かって徐々に低くなりTP10付近では約1m近く下がっている。遺物の散布は標高の高い第1トレント側に集中するようである。層序は1層（1a・1b層）の耕土が50cm前後堆積し、褐色系の砂質土層をはさんで黒褐色粘質土層へ続くものが一般的である。地山は砾を含む黄褐色のローム層である。黒褐色粘質土層内にもわずかに遺物を含むが、安定した包含層ではないようである。

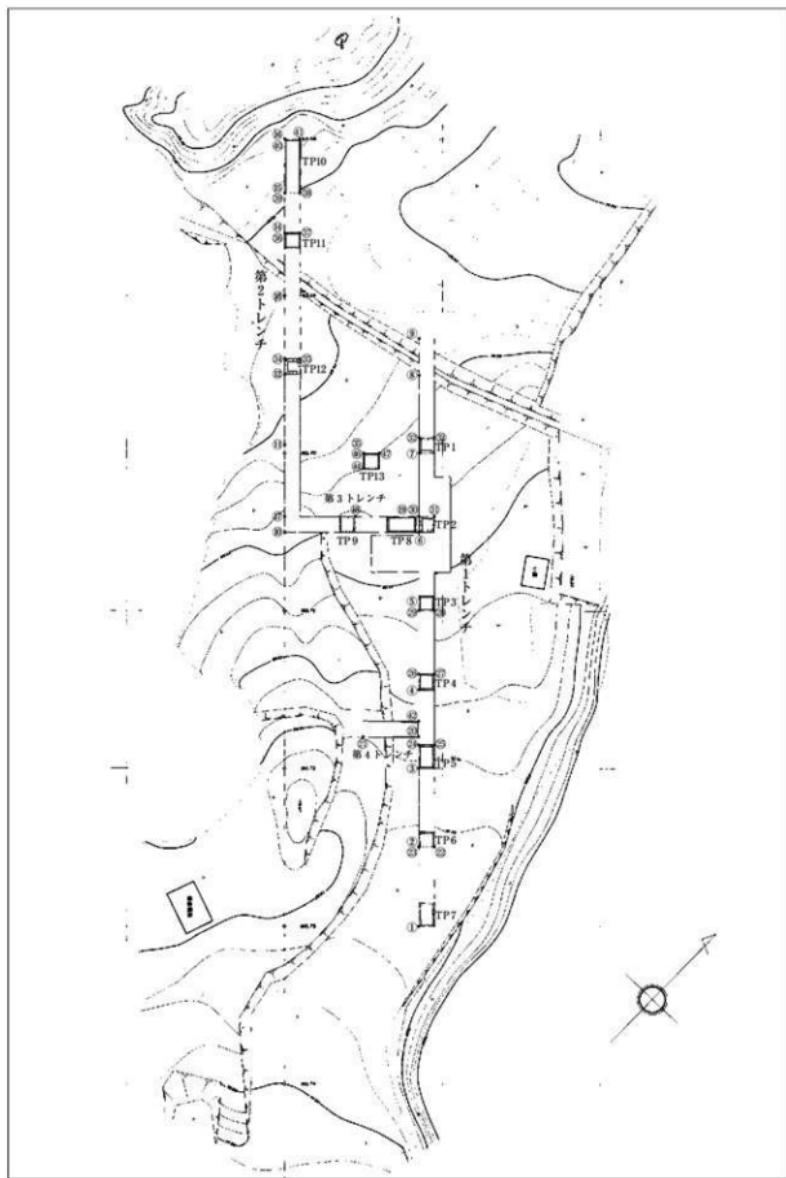
### 第3節 遺物と成果

出土遺物の多くは表土層で確認されている。いずれも細片で縄文時代及び中・近世のものがわずかにみられる。1、2は縄文時代の深鉢である。1はTP2周辺の耕土中から採集されている。口縁部の一部を欠くが、薄い隆帯を貼り付け縫にキザミをいれている。器表面には煤が付着する。2はTP5の5層（黒褐色粘質土層）から出土している。口縁部下には沈線が巡る。器面はかなり摩耗しており、出土地点が2次的な堆積層であった可能性がある。2点ともに縄文時代中期前葉に属するものと思われる。

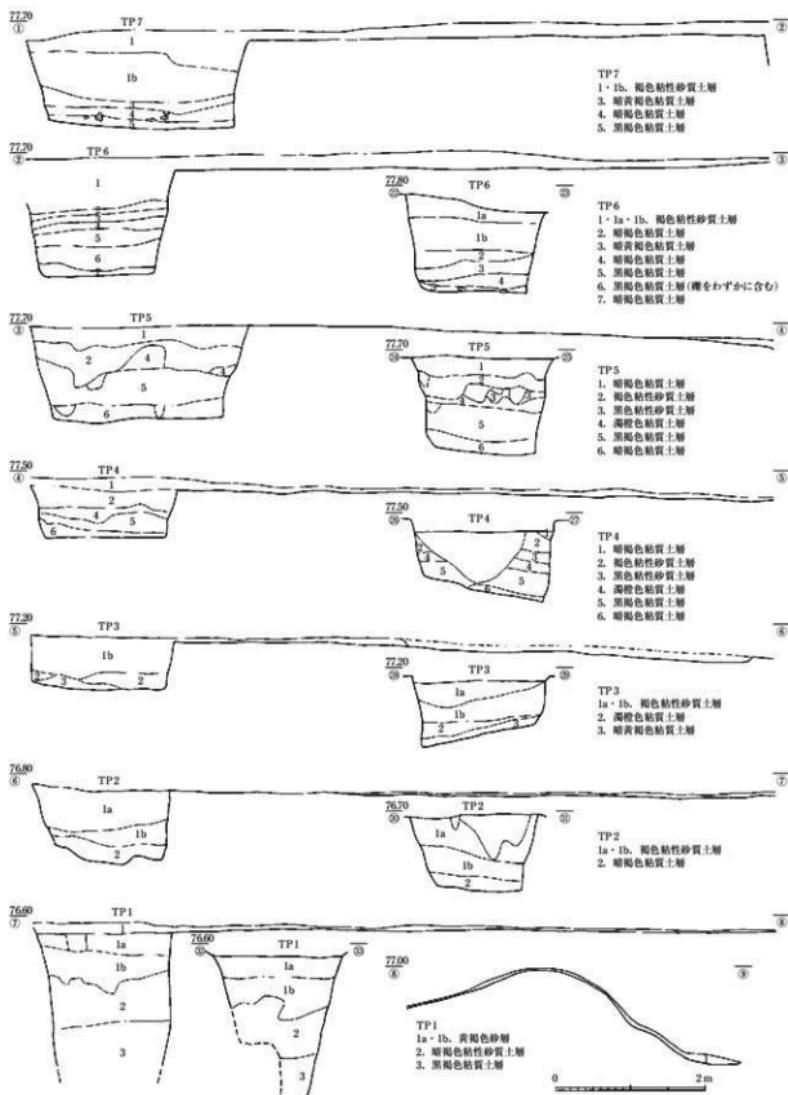
今回の調査ではNO.70~72間のトレント及びTP内で遺物を確認できたが、それらに伴う遺物包含層及び遺構は検出されていない。トレント全域にわたって厚い耕土が堆積しており、近世あるいは近代以降の開墾等によって遺構面が削平された可能性が高い。なお、同年には隣接する若松牧野遺跡（01231）でも発掘調査が行われているが、やはり当遺跡と同様の遺物組成をもち、度重なる開墾等により遺跡の大部分が失われていた。角間川遺跡についてはその実体を把握することは困難であったが、遺物の散布状況や出土量の豊富さ等からみると遺跡の中心部は若松牧野遺跡側にあったとも推測されよう。



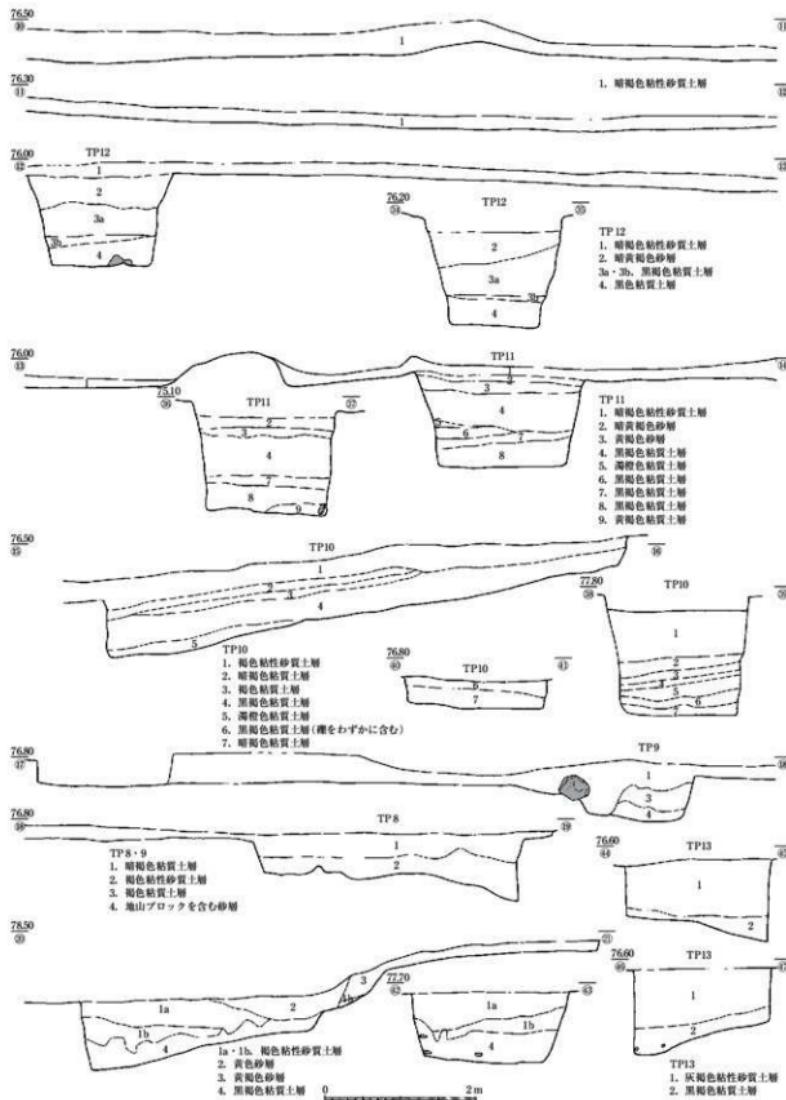
第4図 出土遺物（S=1/3）



第5図 調査区配置図



第6図 第1トレンチ土層断面図 (S=1/60)



第7図 第2～4トレンチ・TP13土層断面図 (S=1/60)



範囲確認調査



第1 トレンチ掘り下げ（東から）



第2 トレンチ掘り下げ（東南から）



第4 トレンチ完掘（北東から）



TP 1 土層断面（北東から）



TP 2 土層断面（北東から）



TP 3 完掘（東南から）



TP 3 土層断面（北西から）



TP 4 完掘（東南から）



TP 5 土層断面（東南から）



TP 6 完掘（東南から）



TP 6 土層断面（北西から）



TP 7 調査風景（北西から）



TP 8 土層断面（東南から）



TP 9 完掘（東南から）



TP10 完掘（北西から）



TP11 完掘（東南から）



TP12 土層断面（東南から）



TP13 土層断面（東南から）



第4 トレンチ完掘（南西から）

# 報告書抄録

ふりがなかなざわしかくまがわいせき								
書名	金沢市 角間川遺跡							
副書名	公共道路改良事業（主）金沢井波線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	藤田邦雄、大路葉子							
編集機関	財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成19年3月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因	
かくま がわいせき 角間川遺跡	いしかわけいせき 石川県金沢市 かくま まち 角間町	市町村 172014	遺跡番号 01232	36度 33分 8秒	136度 42分 8秒	19840508 ～ 19840601	350m <sup>2</sup>	道路工事 (主)金沢井 波線
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
角間川遺跡	散布地	縄文時代 中・近世	小穴	縄文土器 土師器皿、陶磁器				
要約	表土層を中心に、縄文土器や中・近世の陶磁器類がわずかに出土するが、良好な遺物包含層及び遺構は検出されず、後世の開墾等によって削平を受けたものと思われる。							

## 金沢市 角間川遺跡

発行日 平成19（2007）年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市難月1丁目1番地  
電話 076-225-1842（文化財課）

財団法人 石川県埋蔵文化財センター  
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1  
電話 076-229-4477  
E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社 橋本確文堂